

ののち・平和 心と刻み

紙さん 肥田さん ホットトーク

<中>

紙 被団協の五十周年を迎え、平和の運動を培ってきたこのときに、今起こっている北朝鮮の核実験についてどんなお気持ちですか。

国連を中心に 平和的解決を

肥田 深刻に考えています。深刻な経済危機を招いた自らの失政への反省なしに、核兵器を持つことで自分たちの存在価値を誇示しようとする愚かな悪あがきとしか思えません。核兵器の本当の恐ろしさへの無知が駆り立てる愚かな暴挙に限りない恐怖を覚えます。

今回の北朝鮮の暴走に対し、国際的に国連を中心に平和的な解決でやっつけようという制裁決議で一致した。非

常に素晴らしいことです。

紙 北朝鮮の核実験にたいし日本共産党は国会で、日本はどういう立場で臨むべきかを質問しました。衆議院では笠井亮さんが「日本は唯一の被爆国なんだ。そういう日本が説得力を持って向かっていく必要があるんじゃないのか」と政府側をたがいます。

笠井さんは、お母さんが被爆者で「自分は被爆二世だ」と言ったとたんにはかの議員が「おー」というんですね。参議院では井上哲士さんが安倍首相に「平和の立場で非軍事で一致してやる必要がある」とのべて、自分が被爆二世だと話すと参議院でも「おー」という声が出ました。そういう日本ならではの道理を貫くべきだと求めると安

核兵器廃絶

参院議員 紙智子さん 医師 肥田舜太郎さん

力づくで問題は解決しない 肥田



肥田舜太郎氏

倍首相も「おっしゃるようになります」と話されたんです。これ道理に基づいてやる必要がある。はすごく大事だと思います。



紙智子参院議員

から。聞いていると、白々しい気持ちになってくる感じがありますね。

各党の違いを
まぎれおれよ...

肥田 イラクの戦争をみんな見ていて、武力で何かをつくり出すことはほとんどめだということば、大体常識的になってきています。しかし、相手が平和的に応じないときは、すぐ「力づくで」と次元の低いところで問題を解決したがる。

話し合いというのは、激しいやり合いもあれば、ゆっくり話すこともある、いろんな段階を経て理解は深まるので。そういうことを政治の場で一生懸命やるべきですね。

紙さんは共産党の国会議員になられ、質問をしていると自民党や公明党の発言をいやでも聞かなきゃならない。腹が立ってしょうがなくなる。とがあるでしょう。

紙 ありますね。なんか表で言っていることと、裏で言っていることが違うもんです。

紙 おもしろいのは、そういう中には人間模様というのがありまして、その人の気持ちが出たりする時がある。「本当はこうなんだな」と、いろいろとそこで抑えているんだなと、いう気がする時もあります。だから党は別なだけども一致するところはあるみたい。その辺はおもしろいところがありますね。

ただ、やはりものすごく激しいというか、それぞれの党の立場というものが、ものすごくハッキリできてきて、なんというのか階級的な意識、支配する人たちと国民の暮らして守る日本共産党との立場、考え方の違いというものをまぎれと見せつけられます。

国会はそういうことごとく、議員になって思いました。

被爆国として道理つらぬき 紙